

平成 28 年度「第 2 回仕事と介護の両立ワークショップ」開催報告 家族の介護のため退職を選ぶ？

～もしあなたの家族に今、介護がやってきたら～

【日時】平成 28 年 8 月 4 日（木）18：00～20：00

【場所】長崎大学文教キャンパス環境科学部 2 階 A23 教室

【講師】川内 潤氏（NPO 法人となりのかいご 代表）



平成 28 年 8 月 4 日（木）文教キャンパス環境科学部 2 階 A23 教室にて、「第 2 回仕事と介護の両立ワークショップ」を開催いたしました。学内外から 44 名の参加がありました。

1. ご挨拶（医歯薬学総合研究科 井口茂教授）

最初に井口茂教授より挨拶がありました。挨拶の中で、文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業の取組の一環として年に 3 回、仕事と介護の両立ワークショップを開催していることや、介護は地域の中で支えることが一番大切であると述べ、ダイバーシティ推進センターが主体となり実施している集い場木かげでのケアラーズ交流会の説明がありました。

2. 講演（NPO 法人となりのかいご代表 川内潤氏）

講演では、NPO 法人となりのかいご代表川内潤氏より「家族の介護のため退職を選ぶ？～もしあなたの家族に今、介護がやってきたら～」と題し、以下のお話がありました。

まず講演に先立ち、自己紹介の中で、家族の介護に向かう難しさを目の当たりにするきっかけとなった、訪問入浴サービスで介護スタッフとして勤務していた頃の出来事や、自らが立ち上げ管理者として勤務する認知症デイサービスにおいて、介護拒否をするような、身体は元気であるが認知症の方を、（利用者としてではなく）本人の得意な趣味を教える先生として迎えることで通所につなげた事例の紹介等がありました。



写真 1. 井口茂教授



写真 2. 講師：川内 潤氏

次に、両親の介護を想定した具体的なストーリーを2つ挙げた。ひとつは、救急病院に搬送後、早期退院を求められた場合、もうひとつは、病院に勤務するMSW（メディカルソーシャルワーカー）は相談件数が多いため、退院後の生活について個別対応が難しい場合についてでありました。病院だけではなく、地域包括支援センターや認知症カフェ等、自分から色々な人に意見を聞いて、相談先を見つけることが大切であると述べられました。また、遠く離れて暮らす家族の認知症への対応として、子どもに迷惑をかけたくないとの思いから「大丈夫」と言ってしまうことがあるため、言葉をそのまま受けとめずに、前兆にどれだけ早く気づけるかが重要であると述べられました。遠距離介護の知恵について、隣近所や地域包括支援センターなど近所・地域と連携すること、安否確認を兼ねて配食サービスを活用すること等の説明がありました。

その後、動画を用いて認知症の症状の説明があり、完治する薬はないこと、初期段階の発見が重要であることを示され、認知症早期発見のための認知症症状チェックリストの紹介がありました。



写真3、写真4. セミナーの様子

続いて、うつ病性仮性認知症と認知症の識別ポイントの説明の後、うつ症状を伴っているため、認知症を誤診して認知症の症状の悪化を防ぐこと、正しい薬の服用で症状の進行を緩やかにできるため早期の病院受診に結びつけることの重要性が述べられました。

最後に介護離職と家族による虐待の関係として、子の親への虐待を録音した音声を聞いた上で、一人で介護を抱え込んでいるストーリーを挙げ、家族だけで抱え込まないようにすること、周囲の理解を得て、介護サービスを活用することで仕事を辞めずに介護をすることができれば、虐待防止にもつながると述べられました。さらに、職場の介護休業制度を充実させるよりも介護休業を取りやすい環境を作ることが大切であると述べられ、そうすることで介護者の経済的な困窮が減り、自分を大切にしながら介護を続けていくことができ、職場にとっても大切な人材を失わずに済み、双方にとってメリットとなることが示されました。

3. ご挨拶（医歯薬学総合研究科 井口茂教授）

最後に、井口茂教授より、介護は大変だが仕事を辞めることはもっと大変なことになるこ

とを学ぶ機会となったこと、介護を抱え込まず、周囲へ話し協力を得ることの重要性を理解できたことと締めくくられました。

4. 質疑応答

➤要介護3の認知症の母の介護をしている。マンション住まいで人間関係が希薄である。その中で隣近所に支援をお願いする手段について良いアイデアを教えてください。

川内氏：まずは声かけをすること。具体的に時間帯をしっかりと伝えて、電気がその時間にまだついていたら連絡してほしいとお願いしたことでもうまくいった事例の紹介がありました。

➤介護者側に対するお話を中心に伺ったが、企業側はどうしたらよいか。93日間利用できる介護休業制度を利用する人は非常に少ないと聞いている。

川内氏：会社で介護の話をする機会を設けることや、会社の人事として制度の充実を図るのではなく、言いにくさを減らすことが重要である、相談してもらいたいということを発信し続けることが大切であるとも述べられました。

➤介護離職を防ぐことで会社におけるメリットを伺いたい。

川内氏：介護離職する人はある日突然有給休暇の消化をする上に、一身上の都合で退職届を提出する。理由を聞いても介護が理由だとは言わないため、引き止めることができない。そういう人を大事にしていくことが業績アップにつながる、そして、支援を受けた社員は自分のことを考えてくれたことへの感謝を理由に、他に条件の良い仕事があっても会社を辞めないというお話がありました。

第2回仕事と介護の両立ワークショップには、多くのみなさまにご参加いただきました。センタースタッフ一同、心よりお礼申し上げます。

アンケートでは「認知症について理解するきっかけになった。わかりやすい説明だった。」「離職を選ばずに介護ができる方法が知りたかったから、参考になりました。」「介護の難しさの中から離職を選びがちだと思います。でもそれは危険ということを改めて理解しました」 「介護者の支援について、とても参考になりました。抱え込まないように関わっていこうと思います。」など、認知症や介護離職への気づきや学び、ご意見を多くいただきました。参加者の多くは今現在家族介護をされていない方でしたが、「認知症の親に対する心構え、距離のとり方がよくわかりました。近い将来の自分と家族の状況を想像しながら聞きました。」といった将来への不安に対する心構えを持つきっかけとなったことが窺えるご意見もいただきました。アンケートへご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

長崎大学ダイバーシティ推進センターは、今後も仕事と介護の両立ワークショップを開催していく予定としております。今後ますます介護の課題を抱える人が増加することが確実視されているなか、家族の課題を抱える方や今後課題に直面する可能性のある全ての方々への認知症や介護の理解を深められるきっかけとなりますように、仕事と介護の両立支援に取り組んでまいります。